

光と緑の風通信

発行/2024年3月11日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

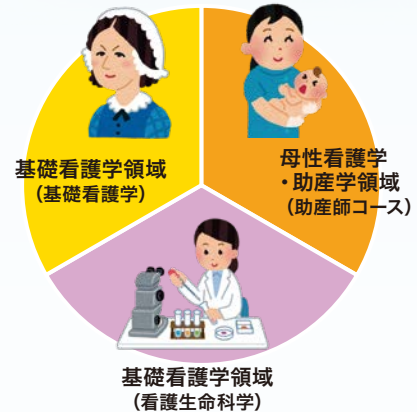
大学院看護学研究科より

博士前期課程新領域開設 「基礎看護学領域」 「母性看護学・助産学領域助産師コース」

大学院看護学研究科 研究科長 高橋 香子

本学大学院看護学研究科博士前期課程に、令和5年4月、新しい領域(コース)が二つ誕生しました。新たに開設した「基礎看護学領域」は、看護の対象となる人間の生命活動、看護実践とその教育等、あらゆる看護学領域に共通する一般性・普遍性について、目的や対象の特徴に即した研究方法を修得、追究することをめざしており、基礎看護学、看護生命科学の2分野で構成されています。もう一つの新領域は、「母性看護学・助産学領域」です。既設の母性看護学領域を改編し「助産師コース」を新たに開設しました。助産師コースでは、卓越した助産実践能力と研究能力を備え、リーダーシップを発揮して、助産ケアの改善・助産学の発展に貢献できる助産師を養成します。新領域を加えて、全体で研究コース8領域、CNSコース3領域、助産師コースという体制になりました。看護実践能力、研究力を高め、人々の生命と生活の質向上のために、看護についてともに考える皆様をお待ちしています。

(たかはし こうこ)



ニュース&トピック

学部開設から25年の歩み

—臨床で見つけた実践と研究の種を育む—

学術委員会 山口咲奈枝 立柳 聡 吾妻陽子
川島理恵 渡邊まどか



8月5日(土)、学術委員会主催にて、パネルディスカッション「学部開設から25年の歩み—臨床で見つけた実践と研究の種を育む—」が開催されました。会場は8号館N301講義室、47名の方の参加がありました。5名のパネリストをお迎えして、初代学部長の中山洋子名誉教授からは看護学部開設までの経緯について、高橋香子看護学研究科長からは「看護学部vision2018」について、佐藤富美子特命教授からは25年かけて形成してきた臨床現場との関係についてご講演がありました。また、看護学部1期生の湯田満希氏(虎の門病院師長)からは、大学時代の学びが現在の自分を支えている事、7期生の菅野秀氏(訪問看護ステーションドレミフア管理者)からは看護学研究科で見つけた自身の目標と現在の活動についてご講演がありました。

後半は、学内看護学会の設立が拓く可能性と課題について意見交換を行いました。今回の企画は、大学が卒業生と連携する機会や、卒業生同士が交流する場を設けることの大切さを確認した時間となりました。

(やまぐち さなえ、たちやなぎ さとし、あづま ようこ、かわしま りえ、わたなべ まどか)



学生生活 紹介



一年間の 学びを通して

看護学部1年 杉田 奈心



希望と不安に包まれながら迎えた入学式から早一年が経とうとして

います。私にとって、看護学生として過ごす日々は何もかもが新しく、自分を成長させてくれるものでした。感知し、考察し、最善を追求することを学びました。

講義中の演習を通し、自分が持っている知識と技術を実践に生かすことがいかに難しいかを痛感しました。看護に携わっていく者として大切なことに気が付くことが出来たような気がします。

初めての実習では、沢山の学びがありました。人との関わり方、話し方、寄り添い方など、自分の中で反省したり悩んだり、時には先生の意見を聞いてみたりと、試行錯誤しながら自分なりの方法を見つけていくことに、楽しさを覚えました。

二年生では、より専門的に看護を学んでいくこととなります。この一年間で学んだことを最大限に生かしながら、この学びをさらに良いものにするよう追及を続ける、そんな一年間にしたいです。(すぎた ななか)

基礎看護学実習Ⅱでの学び

看護学部2年 鈴木 愛叶



今回の実習では、初めて患者さんを受け持たせていただきました

き、多くの学びを得ることができました。患者さんを受け持つこと、看護過程を展開することなど初めて経験することがほとんどで模索しながらの日々でしたが、同じ志を持つ仲間と高め合いながら実習に臨むことができました。実習を通して、アセスメント、看護上の問題点の抽出、看護計画の立案・実施、評価の実際を経験し、患者さんを深く理解することの大切さを実感

しました。多角的な視点を持つて患者さんへの理解を深めていくことで、個性のある看護を提供することに繋がるのだと学びました。同時に、自分自身の課題にも気づくことができました。

三年生では、より専門的に看護学を学ぶ領域別実習があります。看護を実践するにあたりこれまで学んできた科目を振り返り、知識・技術を復習し、実習に臨みたいと思います。今回の実習での経験を今後の学びや実習に活かすとともに、看護師としての在り方や看護観を深めていきたいです。(すぎき まなか)

領域別実習を通しての学び

看護学部3年 佐藤 未実



私は領域別実習を通して、多くの患者さんとお会い様々な

経験と学びを得ました。その中で、安心感を与える看護、患者さんとともに治療を行なっていく姿勢の重要性を学びました。安心感を与える看護とは、対象の不安を軽減したり、ケアをしてもらいたい」と思っている関わりをすることです。援助の際に説明を行ったり、ケア中に声かけを行うこと、また、直接体に触れ、手当をするといっ

たことや隣にいるということでも不安軽減や、安心感の獲得に繋がると学びました。

また、治療とは医療者が一方的に行うものではなく、患者さんと作り上げていくものであると学びました。対象が自身の意見や思いを主張できるように働きかけたり、問題の解決策と一緒に考えていくことで対象の治療に対する意識が高まったり、前向きに捉えられるようになりました。看護学生として成長できる貴重な経験となりました。この経験を活かし今後も勉学に励みたいと思います。(さとう みのり)

4年間の学生生活を振り返って

看護学部4年 影山 安可里



大学に入限があった中でも、学習ができる学してからの4年間は、そして対面で授業ができるようになり、すべての実習を終えることができたとともに感謝しています。大学4年間は大変な

迎える年となりました。私たちが4年生が入学した2020年は新型コロナウイルスが蔓延し始めた年でした。そのため、入学式はなくなり、授業もオンラインで始まり、先日も同級生の顔も知らないまま大きな不安を抱えながら大学生活がスタートしました。これまで支えてくださったすべての方々への感謝を忘れず、大学での4年間の学びに自信と誇りを持って新たな一歩を踏み出していきたいと思えます。(かげやま あかり)

「アット・ザ・ベンチ」を読みながら

太学院博士前期課程1年 山内 麻里子



福島に来単語がわかりません。ファルコンって5年目の冬になりま前?それでも先生に聞いたり、メモしたりしながら、そして「アット・ザ・ベンチ」を読みながら、ひとつひとつ覚えてきました。そして、研究には敵しいけれど優しい先生方と、明るい仲間を支えられてなんとか走り続けています。自分の行っている研究がいつか放射線治療によって口腔乾燥に苦しむ人たちへの苦痛の緩和につながることを信じて、あと1年頑張っていきたいと思っています。(やまうち まりこ)

卒業後、そのまま大学院に進学しました。現在は基礎看護学領域の看護生命科学で唾液腺の研究を行っています。4年次の看護研究IIで、細胞の世界を少し覗いてみようかなと思ったのがきっかけでした。しかしながら、いざ入ってみると、かなりの未知の世界でわからないことがほとんどでした。まず、

光が丘祭

熱気あふれる光が丘祭

第25回光が丘祭 副実行委員長
看護学部2年 木本 成美



本学では、令和5年10月7日・8日に光が丘祭が開催されました。

今年度から新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受け、例年に比べ多くの制限が緩和されての開催となりました。昨年度まで動画配信や人数制限を設けた上で行われていた様々なイベントの制限が解除となったり、コロナウイルスの影響を受け開催が禁止されていた部活動・サークルごとの出店が可能になるなど、少しずつコロナ禍前の生活を取り戻しつつあると感じました。また、多くの制限が緩和されたことを受け、3学部がより一体となつて、協力し合いながら今回の光が丘祭を作り上げている様子が多く見られ、コロナ禍では中々感じることのできなかった人と人との関わり大切さを改めて実感することができました。

今回の光が丘祭では、医療従事者を目指す者としてそれぞれが感染対策への配慮を忘れることなく、現代の社会の流れに合わせて、少しずつ人と人との距離が近づき熱気溢れる光が丘祭が開催できたことを大変嬉しく思います。

(ぎもと なるみ)



合唱部

混声合唱団「燦」定期演奏会を終えて

看護学部3年 佐藤 花純



私たち混声合唱団「燦」は、今年の8月に4年ぶりに定期演奏会を開催しました。新型コロナウイルスの流行により、なかなか全員で集まって活動することができず、先輩方から紡がれるはずだった合唱部の伝統や知識、技術は4年という月日の中で失われつつありました。そのような中で定期演奏会を開催することは苦難の連続で、心配や不安でいっぱいでしたが、合唱部に新たな風を起こすチャンスでもありました。私たちは今までの合唱部の伝統を引き継ぎながらも、変更しなければならぬ点や改善できる点を考え、今年できる最大限を見に来てくださった方々に届けられるように練習に励みました。そして、無事に定期演奏会を開催することができたのは、合唱団を応援し支援してくださった方々の存在や団員の協力と努力があつてこそです。本当にありがとうございました。

ここから新たな合唱団の歴史が作られていきます。これからも応援よろしくお願ひ致します。

(さとう かすみ)



女子バスケ部

女子バスケ部 活動状況

看護学部3年 小野寺 笑緒



こんにちは！女子バスケ部です。私たちは、医学部13名、看護学部10名、保健科学部6名で、木曜日と土曜日に活動しています。ドリブルやシュートといった基礎からゲーム形式まで、全員で意見を出し合い、工夫して練習しています。全員が本気でバスケに取り組んでいるのが女子バスケ部の良さです。

コロナ禍で制限もありましたが、大会にも参加しています。今年は3月に栃木、5月に北海道、8月に長野での大会に参加しました。全員が日々の練習の成果を発揮し、一生懸命戦いました。他大学の女子バスケ部さんとも交流があり、お互いに連絡を取り合つて練習試合を行うこともあります。試合ももちろん楽しいですが、遠征中の移動や宿泊もみんなで大いらいわいてとても楽しいです。

普段の生活でも、部活の間は大切な存在です。教室でたわいもない話をしたり、テストや課題、実習ではお互いを励まし合ったり、長期休みに旅行に行つて楽しんだりしています。

これからもみんなで楽しくバスケしたり、話したり、遊んだりできたら嬉しいです！

(おのであらえがお)



看護学部教員紹介 4



看護学部には約50名の教員がいます。その教員をシリーズで紹介いたします。
第4回目は「小児・精神看護学部門（小児看護学領域・精神看護学領域）」の
教員の紹介です。



【小児看護学領域】

小児看護学では、新生児期から思春期の子どもとその家族の特徴を理解し、生活の援助に必要な知識、技術を学習します。さらに、子どもの権利を踏まえ、各ライフステージにおける発達課題や健康上の課題について理解し、子どもの健康レベルに応じた看護援助を考える力を育んでいきます。



和田久美子

その人なりに成長発達していくことを大切に、有意義な日々を送れるように頑張っています。



古溝 陽子

学生さんの話を聴いて一緒に悩み考え、語り合う時間を大切にしています。



鈴木 学爾

子どもの立場に立っての看護、学生さんの立場になっての教育を心掛けています。



【精神看護学領域】

精神看護は、精神の健康障がいのある方だけではなく、すべての人に必要なことだと考えています。100人居れば100通りの人生があり、それぞれの歩みがあります。本領域では、授業・演習・実習を通して精神看護の楽しさ、魅力、そして、その可能性と発展性を学生の皆さんとともに考えていきたいと思っています。



大川 貴子

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響あり…と心の中で唱えつつ、刺繍に音楽に温泉にと人生を謳歌しています。



佐藤 利憲

「あなたも大事、わたしも大事」…この2つを大事にできる看護職者になってほしいと願っています。



吾妻 陽子

当事者の方、学生さん、そして私自身の「その人らしく生きる」とは何か大切に考えていきたいです。



田村 達弥

「ともに」を大切に、学生さんや精神障がい当事者の方々とかわりを楽しみたいと思っています。

編集後記

今回も多くの皆さまのご協力により、「光と緑の風通信 Vol. 66」を発行することが出来ました。心より御礼申し上げます。カラーでの新しい「光と緑の風通信」も4号目となりました。

今までは「コロナ禍」でのような学校生活が行われているか」をお伝えしましたが、今回は多くの制限が無くなった看護学部の現状」をお伝えすることができました。女子バスケットや混声合唱団のように部活動も練習もほぼ制限がなく、大会に参加することが演奏会なども行われるようになりました。部活だけではなく、学内の講義や臨地での実習も多少の制限はあるもののコロナ前のように行われ、大学生らしい学生生活が送れていることを知って頂ければ幸いです。

また、今年卒業する4年生は入学後にZOOMでの遠隔講義を受け、実習でも多くの制限を受けた学年です。4年間で多くの制限を乗り越え、適応してきた学年です。卒業し、社会にでると様々な変化に適応することが求められます。4年間の大学生活の経験を活かし、卒業後も社会の変化に適応し、活躍することを願っています。

編集長 鈴木 学爾

編集委員

編集長 鈴木 学爾
鈴木 妙子
井上 水絵
佐藤 利憲
関亦 明子